

みやぎ生協

● 石巻で「生活文化会館アイトピア」「石巻渡波店」がオープン！

石巻市で営業を行っていた、みやぎ生協「アイトピア店」「石巻渡波店」は、震災により多大な被害を受け、営業の継続が困難となりました。

「アイトピア店」は再開店を断念しましたが、「生活文化会館アイトピア（通称：アイトピアホール）」として生まれ変わりました。組合員の活動の場として活用する他、地元商店会の皆さんなどと取り組む写真展や、映画の上映会・コンサートをはじめ、復興と街づくり、被災を

忘れない企画や文化イベントなどを開催していきます。復興と地域再生に向けた拠点となるよう、協同の力で貢献していきたいと考えています。

「石巻渡波店」は、2012年12月14日（金）に建替えオープンとなりました。建替えに伴い、お買い物をしやすく、災害に強い建物をめざしました。復興途上の町の新しい生活を支える役割が、この商圈における店舗の使命と考えています。

（総務部 稲葉勝美）



生活文化会館として生まれ変わったアイトピア店



建替えられ再オープンした石巻渡波店

生協あいコープみやぎ

● 放射能自主基準をさらに厳しくしました！

2012年4月より、食品中の放射性物質の新基準（一般食品100Bq/kg等）が施行されたのに伴い、あいコープはそれより更に厳しい自主基準（一般食品50Bq/kg等）を設定して、この半年あまり運用してきました。



NaI シンチレーション検出器

そして2012年11月より、多くの組合員要望に応え組合員の安全安心をさらに高めるために、一般食品の自主基準を25Bq/kgとさらに厳しくしました。

あいコープでは東北大学との提携によりNaIシンチレーション検出器で毎週約50品目の放射能を測定（スクリーニング）しています。そこで汚染の疑いがあれば、すぐに検査機関に出しゲルマニウム半導体検出器（検出限界1~5Bq/kg）で、確定検査を行なう態勢を取っています。

またこれまでの飲料、牛乳、米に加えて、11月からは茸類、柑橘類も必ずゲルマ検出器で検査することとしました。

そしてこれらの結果はすべてホームページ（検索機能付き）に公開し、さらに毎週「放射能自主測定ニュース」として、紙媒体でも組合員に配布しています。あいコープではこれからも自主測定と情報公開を続けてゆきます。

（商品部 高橋寛）

食のみやぎ復興ネットワーク

● 2年ぶり！志津川産カキの取り扱いを再開しました

食のみやぎ復興ネットワークでは、震災で大きな被害を受けた南三陸町志津川のカキ生産者を支援する為に「宮城のカキ復興プロジェクト」を立ち上げています。全国からのボランティアによる土嚢づくりや種付け等の作業支援、収穫用コンテナやフォークリフト、ラック等の備品の提供を行っています。また、生産者と他産地見学会を実施するなどして、より高品質なカキの生産の為に協力しています。

震災から1年半、ようやく志津川のカキ処理場が再建されました。震災後種付けしたカキは、

例年の倍以上の大きさに育ちながらも処理場の再建が遅れ、出荷できないでいました。

その志津川のカキが、みやぎ生協の店舗に2年ぶりに並びました。めぐみ野カキの出荷は水温の低下と身の成長を待って、11月8日（木）から始まっています。11月10日（土）には、みやぎ生協幸町店で生産者による大試食会も開催しました。

ネットワークでは、今後も志津川湾産カキを多くの方々にたくさん食べていただけるように、参加団体と一緒に応援していきます。



志津川仮設カキ処理場



志津川カキ生産者(前列)と
(みやぎ生協幸町店にて)

● みんなの思いをのせて「希望のなの花はちみつ飴」発売！

岩沼の被災地に「菜の花の咲く風景」が広がったのは今年の5月。昨年から取り組んできた「なたねプロジェクト」の成果物がみやぎ生協の店舗に並び始めました。

今回発売された商品は「希望のなの花はちみつ飴」です。津波被害を受けた岩沼市玉浦地区に咲いた菜の花からの贈り物で



す。丸森町の養蜂業者によって採種された蜂蜜を有限会社蔵王の昔飴本舗（大河原町）がおいしい飴に仕立てました。優しい蜂蜜の味をお楽しみください。

食のみやぎ復興ネットワークでは、被災した農地に、塩害に強い「なたね」を植え、収穫物（なたね）の販売収入等で被災した生産者を支え、これらの地が耕作放棄地になることを防いでいくことを目的とした「なたねプロジェクト」に取り組んでいます。津波の被害から復旧できていない農地が広がる地域



「希望の
なの花はちみつ飴」

198円(50g)

被災農地の復興をめざして

に「菜の花の咲く風景」を作ることと、地元で採れた菜の花はちみつ、なたね油とその加工商品の流通を通じて地域を励ます取り組みを進めています。

2013年2月には、「なたね油」「なたね油ドレッシング」「蜂蜜」が発売予定です。

松島医療生協

●被災地支援で、医療生協の「わ」が広がった

松島医療生協は、昨年の夏頃から他の団体と協力し、東松島市・石巻市で、被災地支援に取り組んでいます。活動の一端を御紹介します。東松島市の野蒜地域の被災者自主サークル「はーと」は、被災自宅を修理し暮らしている方や、仮設住宅で暮らしている方が集まり、エコたわし等を作り、全国に販売しています。牛網地域のチーム「あいあい」は、お喋りと小物入れ作りなど手芸を行い、楽しく賑やかに集っています。内響地区

の仮設住宅「健康体操愛好会ひまわり」は、ゲーム感覚で様々な曲に合わせてリズム体操を行い、腹がよじれる程に大笑いするなど、交流を深めています。また健康チェック（血圧測定など）もあり喜ばれています。

11月30日（金）に、3グループと、松島や塩釜などへ転居した被災者を含め40人が参加し、田尻の温泉で交流会を行いました。参加者は近況を語り合い、「お互いに元気でよかったネ！」と、元気を分かち合っ



温泉で交流会

ていました。交流会で、医療生協活動に共感し、7人の組合員加入がありました。その後も、加入者が増えており、被災地で組合員活動も活性化するなど、「わ」が広がってきています。（東松島・石巻担当 小野潤一）

東北大生協

●被災地復興支援企画「塩釜仲卸市場でランチ&被災地買い物ツアー」

11月23日（金）に、東北大生協教職員院生組織委員会・文化レクリエーション企画があり、10人の参加がありました。今年度の文レク企画は「被災地復興支援」を大きな目標に掲げ、被災地で買い物をすることで被災地の復興に貢献しながら組合員同士の交流を深める、「塩釜仲卸市場でランチ&被災地買い物ツアー」を実施しました。

最初に訪れた塩釜仲卸市場では、市場の方から鮎についてや市場の抱える問題等について話を聞いた後、ランチに海鮮丼

をいただきました。

次に向かったマリゲート塩釜および「しおがま・みなと復興市場」では、自由に買い物をしたり、まだ残る震災の被害を眺めたりしました。

その後、七ヶ浜町の菖蒲田浜を経由し、七ヶ浜ボランティアセンターに向きました。ボランティアセンターでは、ボランティアコーディネーターの星真由美さんに、これまでの取り組みや今後の支援の在り方、学習支援の必要性などのお話を伺いました。



ランチの様子

参加された組合員にとっても、被災地の状況を知り、被災地のために何ができるのかを考える良い機会となったと思います。

（理事会室 鈴木歩）

宮城学院生協

● 学食で「被災地の食材を使ったメニュー」が大好評！

この秋から学生食堂では、東日本大震災の被災地支援の一環として、被災地の食材を取り入れたメニューを提供しています。

10月以降、宮城県南三陸産の鮭を使用したはらこ飯、宮城県



石巻産の牡蠣を使用したカキフライ、岩手県大船渡産のサンマを使用した塩焼きと生姜煮を提供しました。通常営業とはひと味違うメニューに、完売してしまうことも…。特にはらこ飯は、懇親会のご利用でも大好評をいただいております。

今後はさらに新メニューを増やしていき、生協の中だけではなく、学生を巻き込んで被災地支援を行っていければと思います。（専務理事 佐藤洋志）



宮城県石巻産牡蠣
カキフライ

宮城県南三陸産鮭
はらこ飯

岩手県大船渡産サンマ
塩焼き

宮城大学生協

● 「復興支援！メニューコンテスト(大学祭)」の取り組み

復興へのお手伝いと、より良い食堂を組合員と一緒に作っていく事を目的に、『復興支援！メニューコンテスト』を、10月13日(土)～14日(日)の大学祭期間中に開催しました。

県内の被災地の食材を使って



来場者に試食していただきました。

メニューを考案し、来場者の方々に食べていただき、一番美味しい品として投票数が多かったメニューを、生協食堂でも出食していこうというものです。

提供したメニューは、「さんまの揚げ餃子」「サメの味噌煮」「サメ・サンマ・カツオの塩麴立田揚げ」でした。普段あまり口にしないサメを使ってみたり、宮城の海産物と話題の塩麴をコラボしてみたり工夫をこらしました。3品とも甲乙つけがたい美味しさでしたが、見事1位に輝いたのは「サメ・サンマ・カ



学生スタッフも出食をお手伝い！

ツオの塩麴立田揚げ」でした。

食産業学部という学部の強みを生かし、教授にもご協力をいただき企画にこぎつけたわけですが、大学からも注目していただきました。宮城の食材の良さに気付いていただいたり、なかなか進まない水産業関係者の復興の一助になればという思いです。（専務理事 井上養明）